

徳島県地域公共交通計画の自己評価

5. 計画の推進

各評価指標に対して以下の目標値を設定し、PDCA サイクルを運用しながら、効率的・効果的な施策展開を図ります。

また、「県」「市町村」「国」「交通事業者」「県民」などの関係機関がそれぞれの役割を担うとともに、連携・協働して取り組んでいきます。

表 各評価指標の目標値

評価指標		現況値	目標値 (R8)	目標値設定の考え方		
成果指標	■指標A 幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり)	全系統の「輸送人員/実車走行キロ」より算出	0.30人/km (R3)	0.40人/km以上	・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に、人口減少を加味	
	■指標B 幹線系統バスの事業収支	収支率 = 収入額(経常収益) / 支出額(経常費用)	36% (R3)	53%以上	・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に、人口減少を加味	
	■指標C 幹線系統バスへの 公的資金投入額	国・県・市町村による幹線系統バスへの公的資金投入額	561百万円 (R3)	409百万円以下	※運行に要する費用は現状維持が前提	
1 公共交通の最適化	■指標1-1 幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり、系統別)	系統別の「輸送人員/実車走行キロ」より算出	本編 表9.5参照		・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に、人口減少を加味	
	■指標1-2 幹線系統バスによる 広域移動者数	市町村をまたいで移動する幹線系統バス利用者数(平日)	2,300人 (R3)	3,100人以上	・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に、人口減少を加味	
	■指標1-3 フィーダー系統の鉄道、 幹線系統バスへの接続便数	フィーダー系統のうち、20分以内に接続している便数	53便	70便以上	・8割程度の水準を目指す	
	■指標1-4 乗り継ぎの平均待ち時間	フィーダー系統と鉄道・幹線系統バスとの乗り継ぎにおける平均待ち時間	22分	20分以内	・国の手引きにおける接続の定義に基づく	
	■指標1-5 新たな運行形態の導入件数	デマンド型交通、自家用有償旅客運送、一般乗車可能な送迎バス、水素燃料電池バスなどの導入件数	3件 (R3)	10件以上 (R4~R8の5年間)	・継続的に増加	
	2 利便性の向上	■指標2-1 キャッシュレス決済の 利用プロジェクト件数	キャッシュレス決済に関する実証実験等の実施数・導入路線数	3件 (R3)	5件以上 (R4~R8の5年間)	・継続的に増加
		■指標2-2 交通結節点の 整備実施箇所数	待合環境整備、情報提供、駐車場・駐輪場整備など	6箇所 (R3)	25箇所以上 (R4~R8の5年間)	・継続的に実施
		■指標2-3 情報提供における システム実装率	公共交通のオープンデータ化実施率	100% (R3)	100%	・新設・再編系統を含め100%維持
		■指標2-4 ノンステップバスの導入割合	路線バスにおけるノンステップバス導入割合	80% (R3)	90%	・上位計画における目標(年2%増)を踏襲
	3 利用促進	■指標3-1 訪日外国人観光客向け フリー乗車券の販売枚数	TOKUSHIMA BUS PASSの販売枚数	4枚 (R2)	410枚以上	・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に回復
■指標3-2 企画乗車券等の販売枚数		1日フリー乗車券の販売枚数	6,128枚 (R3)	8,300枚以上	・コロナ感染症拡大前 (R1) の水準に、人口減少を加味	
		夏休み子ども1日フリー乗車券の販売枚数	3,338枚 (R3)	4,500枚以上	※1日フリー乗車券は、夏休み子ども1日フリー乗車券の割合で設定 (R2販売開始のため)	
■指標3-3 公共交通利用促進イベント等の実施回数		利用促進イベント・普及啓発事業の開催・実施回数	3回 (R3)	年間3回以上 (R4~R8)	・現状と同水準を継続的に実施	
■指標3-4 地域公共交通計画策定 市町村数		-	6市町村 (R3時点)	10市町村以上 (R8時点)	・現状の策定数を概ね倍増	

【概要版】徳島県地域公共交通計画

1. 計画策定の趣旨

本県では、地域公共交通に関係する計画のよりどころとなる基本的な方向性を示した「次世代地域公共交通ビジョン」を2019(令和元)年12月に策定し、それに基づく取組として、鉄道のパターンダイヤ化、バスと鉄道との乗継連携、バス路線の重複解消などを進めた結果、一部区間や駅の利用者数が増加するなど一定の成果が上がっています。

本計画は、「次世代地域公共交通ビジョン」で示されている「持続可能な公共交通ネットワークの構築」を目的として、特に、県民にとって一番身近な移動手段である「幹線系統バス」に主眼を置き、新型コロナウイルス感染症の影響や今後の見通し、公共交通に関する法律改正や技術革新等の最新動向も踏まえながら策定するものです。

2. 計画の区域・期間、位置づけ

計画の区域は徳島県全域とし、計画期間は令和4年度～令和8年度の5年間とします。

本計画は、『『未知への挑戦』とくしま行動計画』など本県の上位計画と整合を図るとともに、県内市町村の「地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)」とも整合・連携を図っています。

3. 公共交通の現状と課題

県内におけるバスの輸送人員は、長期的に減少傾向が続いており、新型コロナウイルスの影響が顕在化した令和2年度は、さらに大幅に減少しています。今後は一層の人口減少、高齢化の進行が見込まれており、公共交通の持続性確保が喫緊の課題となっています。

そこで、次世代地域公共交通ビジョンで掲げている3つの柱である「公共交通の最適化」、「利便性の向上」、「利用促進」により一層取り組んでいく必要があります。



図 県内における路線バス輸送人員

図 徳島県の年齢3区分別人口推移

公共交通の課題

● 公共交通の最適化

鉄道や路線バスに加え、高速バスやデマンド型交通、公共交通以外の輸送手段、先進技術等の活用

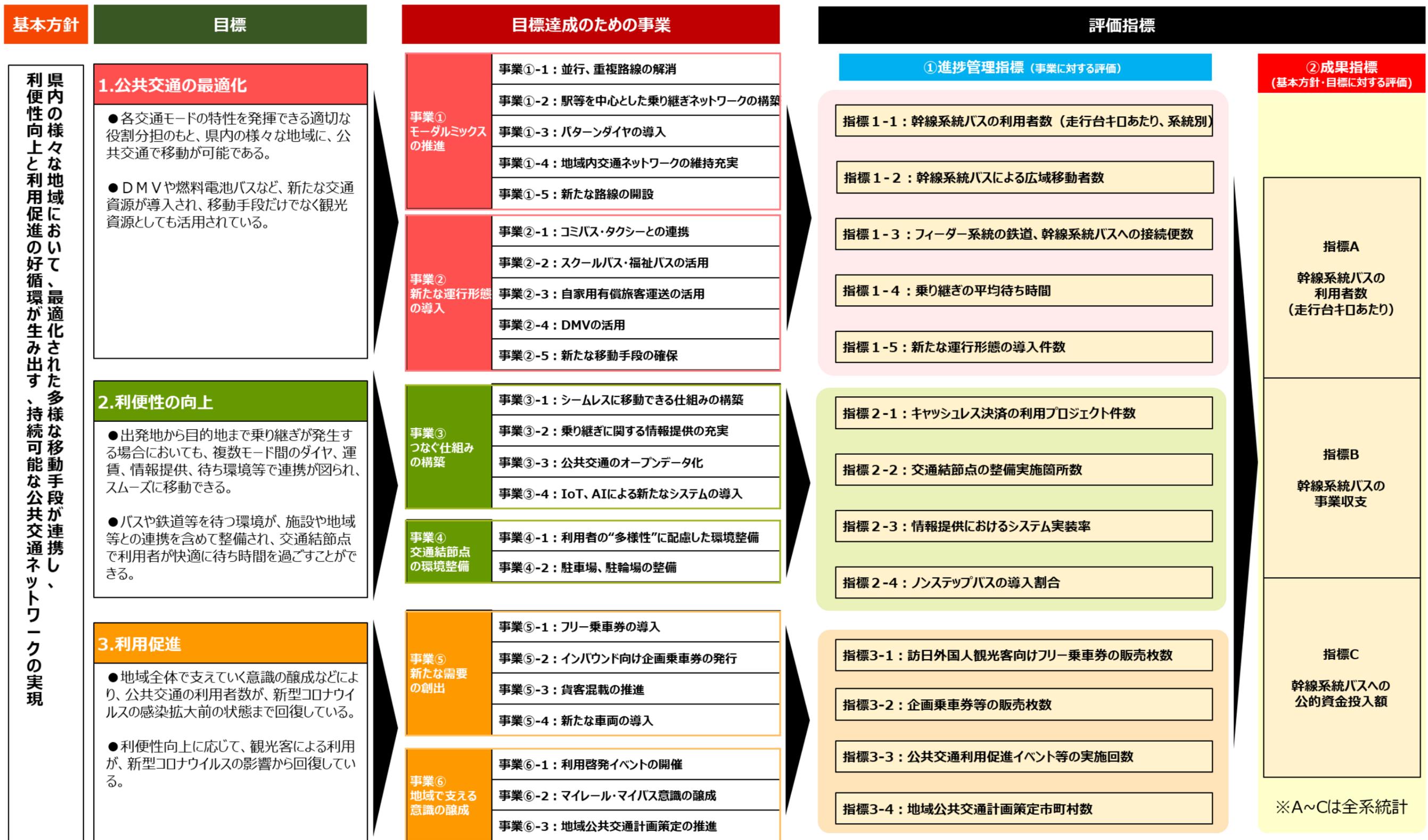
● 利便性の向上

最適化を図る多様な交通モード・路線間の結節強化(パターンダイヤ等)、待ち環境の充実

● 利用促進

地域全体で公共交通を支える意識の醸成、観光を含めた利用促進策やPRの充実

4. 計画の体系



評価指標		現況値	目標値 (R8)	目標値設定の考え方	実績値 (R4)	目標を達成するための取組	達成状況・分析	評価・次年度に向けたと課題や取組	
成果指標	■指標A 幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり)	全系統の「輸送人員／実車走行キロ」より算出	0.30人/km (R3)	0.40人/km以上	【実績値】 0.34人/km 【対象期間】 R3.10~R4.9	【公共交通の最適化】 ・コミバスの実証運行（佐那河内村） ・阿南市ご近所ドライブパートナー制度のエリア拡大（那賀川地区） ・デマンド型乗合交通の導入（美馬市） 【利便性の向上】 ・道の駅「くるくるなと」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 ・スマホタッチ支払いの実証実験（JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線） ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始	・各種取組の実施により、幹線系統バスの利用者数が増加したと考えられる。	・新型コロナや燃油物価高騰の影響を受けたものの、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイルール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、関係者間の役割分担と連携により、持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け各種取組を実施する。	
	■指標B 幹線系統バスの事業収支	収支率 = 収入額(経常収益) / 支出額(経常費用)	36% (R3)	53%以上	【実績値】 40% 【対象期間】 R3.10~R4.9	【利用促進】 ・各種企画乗車券の販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催（12/4、2/5、3/5） ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施（10/29） ・DMVを活用した利用促進イベントの実施（8/6~7、12/24~25） ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	・幹線系統バスの利用者数が増加したことで、事業収支が改善した。		
	■指標C 幹線系統バスへの公的資金投入額	国・県・市町村による幹線系統バスへの公的資金投入額	561百万円 (R3)	409百万円以下	【実績値】 578百万円 【対象期間】 R3.10~R4.9		・利用者数の増加により事業収支は改善したものの、原油物価高騰の影響などを受けた費用の増加に伴い、公的資金投入額は増加した。		
進捗管理指標	■指標1-1 幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり、系統別)	系統別の「輸送人員／実車走行キロ」より算出	別紙参照		【実績値】 別紙参照 【対象期間】 R3.10~R4.9	【公共交通の最適化】 ・コミバスの実証運行（佐那河内村） ・阿南市ご近所ドライブパートナー制度のエリア拡大（那賀川地区） ・デマンド型乗合交通の導入（美馬市） 【利便性の向上】 ・道の駅「くるくるなと」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 ・スマホタッチ支払いの実証実験（JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線） ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始 【利用促進】 ・各種企画乗車券の販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催（12/4、2/5、3/5） ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施（10/29） ・DMVを活用した利用促進イベントの実施（8/6~7、12/24~25） ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	・各種取組の実施により、幹線系統バスの各系統別の利用者数が増加したと考えられる。	・新型コロナや燃油物価高騰の影響を受けたものの、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイルール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、各系統別の利用者数を増加させる取組を実施する。	
	■指標1-2 幹線系統バスによる広域移動者数	市町村をまたいで移動する幹線系統バス利用者数（平日）	2,300人 (R3)	3,100人以上	【実績値】 2,300人 【対象期間】 R3.10~R4.9	【利便性の向上】 ・道の駅「くるくるなと」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 ・スマホタッチ支払いの実証実験（JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線） ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始 【利用促進】 ・各種企画乗車券の販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催（12/4、2/5、3/5） ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施（10/29） ・DMVを活用した利用促進イベントの実施（8/6~7、12/24~25） ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	・各種取組の実施により、幹線系統バスによる広域移動者数が増加したと考えられる。 (参考) 実績値 R3 : 2,252人 R4 : 2,297人	・新型コロナの影響を受けたものの、各種取組の実施により、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイルール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、広域移動者数を増加させる取組を実施する。	
	■指標1-3 フィーダー系統の鉄道、幹線系統バスへの接続便数	フィーダー系統のうち、20分以内に接続している便数	53便	70便以上	8割程度の水準を目指す	【実績値】 68便 【対象期間】 R5.4時点	・交通結節点を通過するコミバスの便数の増加 ・幹線系統バスの運行ダイヤの改正	・コミバスの路線の便数の増加や幹線バスの運行ダイヤの改正により乗り継ぎ時間の短い便が増加した。	・運行ダイヤの調整をはじめ、引き続き利用者の利便性向上に向けた取組を実施する。
	■指標1-4 乗り継ぎの平均待ち時間	フィーダー系統と鉄道・幹線系統バスとの乗り継ぎにおける平均待ち時間	22分	20分以内	国の手引きにおける接続の定義に基づく	【実績値】 22分 【対象期間】 R5.4時点	・幹線系統バスとの接続を考慮したコミバスの路線の変更 ・幹線系統バスの運行ダイヤの改正	・乗り継ぎを考慮した路線の変更や運行ダイヤの改正が行われた。	・運行ダイヤの調整をはじめ、引き続き利用者の利便性向上に向けた取組を実施する。
	■指標1-5 新たな運行形態の導入件数	デマンド型交通、自家用有償旅客運送、一般乗車可能な送迎バス、水素燃料電池バスなどの導入件数	3件 (R3)	10件以上 (R4~R8の5年間)	継続的に増加	【実績値】 3件(累計) 【対象期間】 R4.4~R5.3	・阿南市ご近所ドライブパートナー制度の運行エリア拡大（那賀川地区） ・幹線系統バスに接続するコミバスの実証運行（佐那河内村） ・デマンド型乗合交通の導入（美馬市）	・地域の実情に合わせた運行形態の導入や新たな実証運行が実施された。	・新たな運行形態の導入等が順調に行われている。 ・各地域で実施されている運行形態を関係者間で共有し、地域にあった取組の実施に繋げる。

評価指標		現況値	目標値 (R8)	目標値設定の考え方	実績値 (R4)	目標を達成するための取組	達成状況・分析	評価・次年度に向けたと課題や取組		
2 利 便 性 の 向 上	■指標2-1 キャッシュレス決済の 利用プロジェクト件数	キャッシュレス決済に関する実証実験等の 実施数・導入路線数	3件 (R3)	5件以上 (R4~R8の5年間)	継続的に増加	【実績値】 2件(累計) 【対象期間】 R4.4~R5.3	・スマホタッチ支払い実証実験 (JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線) ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始 (JR四国管内)	・スマホを活用した新たなキャッシュ レス決済システムの実証実験等が 実施された。	・キャッシュレス決済の利用プロジェクト が順調に実施されている。 ・引き続き、利用者の利便性向上に 繋がるキャッシュレス決済の導入に向 けた研究を継続する。	
	■指標2-2 交通結節点の 整備実施箇所数	待合環境整備、情報提供、 駐車場・駐輪場整備など	6箇所 (R3)	25箇所以上 (R4~R8の5年間)	継続的に実施	【実績値】 6箇所(累計) 【対象期間】 R4.4.~R5.3	・道の駅「くるくるなると」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 (町内の5カ所)	・新たな交通結節点となる施設の 整備や待合環境の整備が実施さ れた。	・交通結節点の整備が順調に実施さ れている。 ・引き続き、利便性向上に向けた取 組を推進する。	
	■指標2-3 情報提供における システム実装率	公共交通のオープンデータ化 実施率	100% (R3)	100%	新設・再編系 統を含め 100%維持	【実績値】 100% 【対象期間】 R4.4~R5.3	・ダイヤ改正や路線変更にあわせ、オープンデータ情報を更新	・利用者の混乱を招かないよう、ダ イヤ改正や路線変更などがあつた 場合は、オープンデータ情報の更新 が適切に行われた。	・オープンデータ情報の更新が順調に 実施されている。 ・引き続き、適切に情報を更新する。	
	■指標2-4 ノンステップバスの導入割合	路線バスにおけるノンステップバス 導入割合	80% (R3)	90%	上位計画にお ける目標(年 2%増)を踏襲	【実績値】 82.8% 【対象期間】 R4.4~R5.3	・ノンステップバス車両を導入	・利用者の利便性向上を図るた め、ノンステップバスの導入が進めら れた。	・ノンステップバスの導入が順調に実施 されている。 ・引き続き、ノンステップバスの導入を 推進する。	
進 捗 管 理 指 標	3 利 用 促 進	■指標3-1 訪日外国人観光客向け フリー乗車券の販売枚数	TOKUSHIMA BUS PASS の販売枚数	4枚 (R2)	410枚以上	コロナ感染症拡 大前(R1)の水 準に回復	【実績値】 74枚 【対象期間】 R4.4~R5.3	・訪日外国人観光客向けフリー乗車券 (TOKUSHIMA BUS PASS) を 販売	・水際対策の緩和などによる訪日 外国人旅行者の増加に伴い販売 枚数も増加したと考えられる。	・新型コロナ等の影響を受けたもの の、順調に推移している。 ・訪日外国人観光客向けフリー乗車 券の販売を継続する。
		■指標3-2 企画乗車券等の販売枚数	1日フリー乗車券の販売枚数	6,128枚 (R3)	8,300枚以上	コロナ感染症拡 大前(R1)の水 準に、人口減 少を加味 ※1日フリー乗 車券は、夏休み こども1日フリー 乗車券の割合 で設定 (R2販 売開始のため)	【実績値】 10,392枚 【対象期間】 R4.4~R5.3	・1日フリー乗車券を販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進	・新型コロナの落ち着いたものに 伴い、乗 車券購入者が増加したものと考 えられる。	・新型コロナ等の影響を受けたもの の、順調に推移している。 ・引き続き、フリー乗車券の販売を継 続する。
			夏休みこども1日フリー乗車券 の販売枚数	3,338枚 (R3)	4,500枚以上	【実績値】 3,744枚 【対象期間】 R4.4~R5.3	・夏休みこども1日フリー乗車券を販売			
		■指標3-3 公共交通利用促進イベント 等の実施回数	利用促進イベント・普及啓発 事業の開催・実施回数	3回 (R3)	年間3回以上 (R4~R8)	現況と同水準を 継続的に実施	【実績値】 7回 【対象期間】 R4.4~R5.3	・公共交通利用促進リーシンポジウムの開催 (12/4、2/5、3/5) ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施 (10/29) ・DMVを活用した利用促進イベントの実施 (8/6~7、12/24~25) ・路線バス1日フリー乗車 d a yの実施	・県民の皆様のマイレール・マイバス 意識の醸成とともに、公共交通の 利用促進を図るため、「乗ってのこ そう！公共交通」を合い言葉に各 種取り組みを実施した。	・令和4年度の目標達成。 ・引き続き、マイレール・マイバス意識の 醸成と公共交通の利用促進に努め る。
■指標3-4 地域公共交通計画策定 市町村数	-	6市町村 (R3時点)	10市町村以上 (R8時点)	現況の策定数 を概ね倍増	【実績値】 10市町 【対象期間】 R4.4~R5.3	・徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、阿波市、美馬市、三好市、 那賀町、つるぎ町、東みよし町で法定計画を策定	・地域の実情に合わせ、持続可能 な公共交通ネットワークの実現に向 けた計画の策定が進められた。	・市町村による積極的な計画策定推 進により目標達成。 ・引き続き、持続可能な公共交通ネッ トワークの実現に向け計画策定や各 種取組を推進する。		

幹線系統バスの系統別の利用者数

No	路線	起点	主な経由地	終点	現況値 (R3)		実績値 (R4)		目標値 (R8)		目標値 (R8)との比較	前年との比較	
					輸送人員 (人)	実車走行キロ (km)	利用者数 (走行キロあたり) (人/km)	輸送人員 (人)	実車走行キロ (km)	利用者数 (走行キロあたり) (人/km)			利用者数 (走行キロあたり) (人/km)
1	鳴門公園	徳島	大松東・田ノ浦	鳴門公園	38,363	187,297	0.20	65,011	185,972	0.35	0.27以上	○	増
2	鳴門下板	徳島	大松東・東発・教育大	ウチノ海	61,019	104,567	0.58	68,969	101,865	0.68	0.78以上	-	増
3	鳴門下板	徳島	老門・空港・東発	ウチノ海	35,007	115,174	0.30	48,010	114,878	0.42	0.41以上	○	増
4	鳴門下板	徳島	老門・東発	小鳴門橋	75,445	154,325	0.49	70,710	154,006	0.46	0.65以上	-	減
5	鳴門上板	徳島	フジグラン・立道	小鳴門橋	53,640	138,434	0.39	48,976	140,840	0.35	0.52以上	-	減
6	鳴門藍住	ゆめタウン	フジグラン・空港	鳴門公園	10,000	129,176	0.08	22,161	127,586	0.17	0.10以上	○	増
7	長原	徳島	前野・航空隊	長原	22,381	60,775	0.37	30,805	60,613	0.51	0.49以上	○	増
8	グリーンタウン	徳島	フジグラン・グリーンタウン	吉野川病院	14,610	47,523	0.31	18,567	47,393	0.39	0.41以上	-	増
9	鍛冶屋原	徳島	フジグラン・板野	鍛冶屋原	46,736	146,992	0.32	55,055	148,114	0.37	0.42以上	-	増
10	名田橋	徳島	不動・ゆめタウン・板野	鍛冶屋原	25,099	88,863	0.28	23,881	89,635	0.27	0.38以上	-	減
11	名田橋	徳島	不動・ゆめタウン・板野・あまのぼろ	鍛冶屋原	16,720	83,130	0.20	17,450	82,131	0.21	0.27以上	-	増
12	北島藍住	徳島	フジグラン・藍住役場	ゆめタウン	21,080	49,692	0.42	24,297	49,610	0.49	0.57以上	-	増
13	二条鴨島	徳島	ゆめタウン・下庄・二条	鴨島駅	30,452	135,163	0.23	35,608	134,885	0.26	0.30以上	-	増
14	竜王団地	徳島	日開・竜王団地	フジグラン	25,065	78,174	0.32	34,690	78,045	0.44	0.43以上	○	増
15	竜王団地	徳島	不動・竜王団地	フジグラン	7,631	47,203	0.16	11,793	47,054	0.25	0.22以上	○	増
16	石井上板	徳島	石井・フジグラン・イオンタウン	鍛冶屋原	22,920	86,471	0.27	11,836	86,268	0.14	0.35以上	-	減
17	鴨島	徳島	浦庄	西麻植	44,473	167,627	0.27	45,703	167,309	0.27	0.35以上	-	増
18	高原	徳島	フジグラン・高原	平島東	28,671	69,856	0.41	32,736	69,728	0.47	0.55以上	-	増
19	神山	徳島	入田・オロノ	神山高校	23,177	112,514	0.21	27,184	112,364	0.24	0.27以上	-	増
20	神山	徳島	延命・オロノ	神山高校	18,741	82,914	0.23	24,642	82,822	0.30	0.30以上	-	増
21	神山	徳島	石井・阿川	神山高校	27,851	75,175	0.37	26,215	75,237	0.35	0.49以上	-	減
22	佐那河内	徳島	大木南・中辺	神山高校	21,924	134,594	0.16	22,387	134,407	0.17	0.22以上	-	増
23	勝浦	徳島	長柱	横瀬西	77,005	198,891	0.39	73,523	198,518	0.37	0.52以上	-	減
24	あいさい	徳島	パイパス・日赤病院	あいさい広場	17,101	64,678	0.26	24,006	63,745	0.38	0.35以上	○	増
25	橋	徳島	小松島	橋西	128,712	336,008	0.38	129,860	335,152	0.39	0.51以上	-	増
26	丹生谷	徳島	阿南医療センター 橋営業所	川口	64,508	275,940	0.23	72,847	275,184	0.26	0.31以上	-	増
計					958,331	3,171,155	0.30	1,066,922	3,163,360	0.34	0.40以上	7	20

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料3 (申請様式)

徳島県地域公共交通計画の評価等結果 (令和4年4月～令和5年3月)

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり) 0.30人/km (R3) → 0.40人/km以上 (R8)	【公共交通の最適化】 ・コミバスの実証運行 (佐那河内村) ・阿南市ご近所ドライブパートナー制度のエリア拡大 (那賀川地区)	バス事業者の実績報告	・0.34人/km (R3.10～R4.9) ・各種取組の実施により、幹線系統バスの利用者数が増加したと考えられる。		
幹線系統バスの事業収支 36% (R3) → 53%以上 (R8)	【利便性の向上】 ・道の駅「くるくるなると」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 ・スマホタッチ支払いの実証実験 (JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線) ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始	バス事業者の実績報告	・40% (R3.10～R4.9) ・幹線系統バスの利用者数が増加したことで、事業収支が改善した。	・新型コロナや燃油物価高騰の影響を受けたものの、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイレール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、関係者間の役割分担と連携により、持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け各種取組を実施する。	
幹線系統バスへの公的資金投入額 561百万円 (R3) → 409百万円以下 (R8)	【利用促進】 ・各種企画乗車券の販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催 (12/4、2/5、3/5) ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施 (10/29) ・DMVを活用した利用促進イベントの実施 (8/6～7、12/24～25) ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	補助金申請書類等	・578百万円 (R3.10～R4.9) ・利用者数の増加により事業収支は改善したものの、原油物価高騰の影響などを受けた費用の増加に伴い、公的資金投入額は増加した。		
幹線系統バスの利用者数 (走行台キロあたり、系統別)		バス事業者の実績報告	・別紙参照 (R3.10～R4.9) ・各種取組の実施により、幹線系統バスの各系統別の利用者数が増加したと考えられる。	・新型コロナや燃油物価高騰の影響を受けたものの、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイレール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、各系統別の利用者数を増加させる取組を実施する。	
幹線系統バスによる広域移動者数 2,300人 (R3) → 3,100人以上 (R8)	【利便性の向上】 ・道の駅「くるくるなると」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備 ・スマホタッチ支払いの実証実験 (JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線) ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始 【利用促進】 ・各種企画乗車券の販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催 (12/4、2/5、3/5) ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施 (10/29) ・DMVを活用した利用促進イベントの実施 (8/6～7、12/24～25) ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	バス事業者の実績報告	・2,297人 (R3.10～R4.9) ※R3実績: 2,252人 ・各種取組の実施により、幹線系統バスによる広域移動者数が増加したと考えられる。	・新型コロナの影響を受けたものの、各種取組の実施により、概ね順調に推移している。 ・引き続き、マイレール・マイバス意識の醸成などの利用促進や乗継環境向上などを継続して実施するとともに、広域移動者数を増加させる取組を実施する。	
フィード・システムの鉄道、幹線系統バスへの接続便数 53便 (R3) → 70便以上 (R8)	・交通結節点 (徳島ととくとくターミナル) に接続する便数の増加 (松茂町)	交通事業者の時刻表	・68便 (R5.4月時点) ・交通結節点を通過するコミバスの便数の増加 ・幹線系統バスの運行ダイヤの改正	運行ダイヤの調整をはじめ、引き続き利用者の利便性向上に向けた取組を実施する。	
乗り継ぎの平均待ち時間 22分 (R3) → 20分以内 (R8)	・交通結節点 (徳島ととくとくターミナル) に接続する便数の増加 (松茂町)	交通事業者の時刻表	・22分 (R5.4月時点) ・幹線系統バスとの接続を考慮したコミバスの路線の変更 ・幹線系統バスの運行ダイヤの改正	運行ダイヤの調整をはじめ、引き続き利用者の利便性向上に向けた取組を実施する。	
新たな運行形態の導入件数 3件 (R3) → 累計10件以上 (R8)	・阿南市ご近所ドライブパートナー制度の運行エリア拡大 (那賀川地区) ・幹線系統バスに接続するコミバスの実証運行 (佐那河内村) ・デマンド型乗合交通の導入 (美馬市)	関係機関への取組状況調査	・3件 (R4.4～R5.3) ・地域の実情に合わせた運行形態の導入や新たな実証運行が実施された。	・新たな運行形態の導入等が順調に行われている。 ・各地域で実施されている運行形態を関係者間で共有し、地域にあった取組の実施に繋げる。	

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
キャッシュレス決済の利用プロジェクト件数 3件 (R3) → 累計5件以上 (R8)	・スマホタッチ支払い実証実験 (JR牟岐線、阿南大阪線、丹生谷線) ・スマホアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用開始 (JR四国管内)	関係機関への取組状況調査	・2件 (R4.4～R5.3) ・スマホを活用した新たなキャッシュレス決済システムの実証実験等が実施された。	・キャッシュレス決済の利用プロジェクトが順調に実施されている。 ・引き続き、利用者の利便性向上に繋がるキャッシュレス決済の導入に向けた研究を継続する。	
交通結節点の整備実施箇所数 6箇所 (R3) → 累計25箇所以上 (R8)	・道の駅「くるくるなると」の開設 ・那賀町バス停留所の待合環境整備	関係機関への取組状況調査	・6箇所 (R4.4～R5.3) ・新たな交通結節点となる施設の整備や待合環境の整備が実施された。	・交通結節点の整備が順調に実施されている。 ・引き続き、利便性向上に向けた取組を推進する。	
情報提供におけるシステム実装率 100% (R3) → 100% (R8)	・ダイヤ改正や路線変更にあわせ、オープンデータ情報を更新	関係機関への取組状況調査	・100% (R4.4～R5.3) ・利用者の混乱を招かないよう、ダイヤ改正や路線変更などがあつた場合は、オープンデータ情報の更新が適切に行われた。	・オープンデータ情報の更新が順調に実施されている。 ・引き続き、適切に情報を更新する。	
ノンステップバスの導入割合 80% (R3) → 90% (R8)	・ノンステップバス車両を導入	事業者への聞き取り	・82.8% (R3.10～R4.9) ・利用者の利便性向上を図るため、ノンステップバスの導入が進められた。	・ノンステップバスの導入が順調に実施されている。 ・引き続き、ノンステップバスの導入を推進する。	
訪日外国人観光客向けフリー乗車券の販売枚数 4枚 (R2) → 410枚以上 (R8)	・訪日外国人観光客向けフリー乗車券 (TOKUSHIMA BUS PASS) を販売	事業者への聞き取り	・74枚 (R4.4～R5.3) ・水際対策の緩和などによる訪日外国人旅行者の増加に伴い販売枚数も増加したと考えられる。	・新型コロナ等の影響を受けたものの、順調に推移している。 ・訪日外国人観光客向けフリー乗車券の販売を継続する。	
企画乗車券等の販売枚数 1日フリー乗車券 6,128枚 (R3) → 8,300枚以上 (R8) 夏休み子ども1日フリー 3,338枚 (R3) → 4,500枚以上 (R8)	・1日フリー乗車券を販売 ・とくしまプレミアム交通券の販売による利用促進 ・夏休み子ども1日フリー乗車券を販売	事業者への聞き取り等	・1日フリー乗車券10,392枚 (R4.4～R5.3) ・夏休み子ども1日フリー乗車券3,744枚 (R4.4～R5.3) ・新型コロナの落ち着きに伴い、乗車券購入者が増加したものと考えられる。	・新型コロナ等の影響を受けたものの、順調に推移している。 ・引き続き、フリー乗車券の販売を継続する。	
公共交通利用促進イベント等の実施回数 3回 (R3) → 年間3回以上 (R8)	・公共交通利用促進リレーシンポジウムの開催 (12/4、2/5、3/5) ・公共交通利用促進エコライフキャンペーンの実施 (10/29) ・DMVを活用した利用促進イベントの実施 (8/6～7、12/24～25) ・路線バス1日フリー乗車dayの実施	関係機関への取組状況調査	・7回 (R4.4～R5.3) ・県民の皆様のマイレール・マイバス意識の醸成とともに、公共交通の利用促進を図るため、「乗ってのこそう！公共交通」を合い言葉に各種取り組みを実施した。	・令和4年度の目標達成。 ・引き続き、マイレール・マイバス意識の醸成と公共交通の利用促進に努める。	
地域公共交通計画策定市町村数 6市町村 (R3) → 10市町村以上 (R8)	・徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、阿波市、美馬市、三好市、那賀町、つるぎ町、東みよし町で法定計画を策定	関係機関への取組状況調査	・10市町 (R4.4～R5.3) ・地域の実情に合わせ、持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けた計画の策定が進められた。	・市町村による積極的な計画策定推進により目標達成。 ・引き続き、持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け計画策定や各種取組を推進する。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自で作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。